

評価委員：小島泰明委員、松井弘委員、鈴木猛夫委員、青柳聖真委員 池田富太郎委員

評価時期 平成31年2月

## 1 総括的意見

### (1) 重点目標1の「学力向上」について

- ・分かりやすい授業、ねらいを明確にした授業について保護者の90%以上が肯定的な評価をしており、ほぼ目標は達成されていた。学力調査の結果もよい。引き続き「個に応じた指導」の充実を図り、授業改善に関わる研究実践が継続されることを期待する。

### (2) 重点目標2の「人間性・社会性」について

- ・「よいこのやくそく」の徹底を行った。教員の共通理解のもと指導をすることで、約束を守り行動できる子どもが増えてきている。特に、チャイム着席、授業の開始・終了のあいさつについては、しっかりとできるようになり、学習意欲も高まってきている。全教員が徹底した指導を行うことで、子どもたちの健やかな成長につながっている。

### (3) 重点目標3の「心と体の健康づくり」について

- ・毎年課題となっている「あいさつ」であるが、今年度も、代表委員会や全児童が学級毎ごとに輪番で玄関に立ち「あいさつ運動」に継続的に取り組んだ。評価を見ると成果を上げつつある。あいさつは、心を開くことにつながる。地域も協力していきたい。

## 2 今後の改善に向けた意見

### (1) あいさつ運動は引き続きお願いしたい。

(2) 社会の多様化により、教育活動も転換期に来ているのではないかと。さまざまな課題について先生方だけで解決することが難しい場合、地域に声をかけて欲しい。

(3) 今年度も学校全体が落ち着いているように感じられた。周年式典での高学年が立派であった。学習・生活指導に先生方が児童一人一人に向き合っていることがよく分かる。引き続き、一人一人のよさを引き出す指導をお願いしたい。

(3) 悩みや不安を抱える児童がいる。問題を早期に発見し対応できるよう引き続きお願いしたい。

## 3 その他の意見

(1) 開校130周年記念式典やその他の関連行事が無事終了した。地域、PTAとの協力関係も非常によく、満足できるものであった。この関係をさらに強めていきたい。